

キーワード: **子育て家庭** **被災者支援** **サロン** 活動地域: 岩手県
テーマ: 地域や家庭における子ども・子育てに関する事業

団体名: **まんまるママいわて**

事業名: 助産師と母親がつながる子育て支援事業

助成金額: 2,298 千円 事業年度: 平成 26 年度

団体概要

住所: 〒025-0026
岩手県花巻市大谷地 836

連絡先: 0198-41-6800

HP: <http://manmaru.org/>

事業背景

出産を取り扱う医療機関等の減少が進む岩手県では、医療関係者への相談を十分に行うことができないため、自信がもてないまま出産・子育てに向き合う母親が多い状況にありました。

甚大な被害をもたらした東日本大震災は、岩手県の母親の不安をますます大きくさせました。不安に駆られる母親たちの様子を見て、それまで行っていたサロンを被災の大きかった沿岸部の母親にも届ける活動をスタートさせました。



親の身体や心が元気になっていく様子がみられました。

参加を重ねるごとに母親同士の信頼関係も強くなり、震災による PTSD や、今まで話すことすらできなかった心の葛藤等の悩みを、皆と共有できるようになった母親も出てきました。

ここに注目!

助産師という専門性を活かしながら、岩手の内陸部から沿岸部まで広範囲にわたる活発な活動を展開しました。

サロン開催地に居住している保健師や地元サロン等の人材や資源の活用、県外の先進事例の研究等も行い、支援の継続・発展に関する活動にも同時に取り組んでいます。

事業概要

助成事業では、沿岸部を中心にした岩手県の 5 か所で小さな赤ちゃんや子どもと一緒に参加できる「いつでも助産師と会えるサロン」を開催し、277 組(大人 277 名、子ども 304 名)の母子を支援したほか、講座も開催しました。

サロンでは、母親がリラックスして本音を打ち明けられるように助産師等がアロママッサージをしながら、妊娠・出産・育児等の相談を受けました。

母親たち同士の交流は、単なるお茶飲みにとどまらず、初めて地域とのつながりができた等、母



サロンの様子



産後ボディケア講座マドレボニータの様子

キーワード: **子ども** **被災者支援** **学習支援** 活動地域: 福島県

テーマ: 地域や家庭における子ども・子育てに関する事業

団体名: **特定非営利活動法人ビーンズふくしま**

事業名: 仮設住宅等の子どもへの学習支援を中心とした見守り事業

助成金額: 1,706 千円 事業年度: 平成 25 年度

団体概要

住所: 〒960-8066
福島県福島市矢剣町 22-5 2F

連絡先: 024-563-6255

info@beans-fukushima.or.jp
HP: <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

事業背景

震災や原発事故の影響により、子どもたちは住み慣れた地域を離れ、友人との別れや長期に及ぶ避難生活に計り知れないストレスを抱えています。特に、避難先の学校に区域外就学をしている子どもたちの学校以外の生活や家庭生活の支援は不足しており、子どもたちの成長や発達に影響するのではないかと心配されていました。保護者もストレスを抱えている状況であり、虐待等につながるケースの増加も懸念されています。

事業概要

助成事業では、仮設住宅に住む子ども達を対象とした学習支援を通して子どもの居場所作りを行いました。学習支援では、保護者だけでなく、自治会や学校、地域住民の協力を得ながら、子どもたちの生活支援を進めています。

また、その中で見えてきた課題である、「家庭における保護者の不安」や「虐待の疑いのある家庭の支援」に関して、専門機関と協力したり、仮設住宅や借上げ住宅の子どもや親たちの心のケアにつながる相談や講座の企画を行いました。

子どもたちへの支援は中長期的に継続していく必要があるため、この取り組みの必要性を多くの人に発信してきました。その結果、企業からの寄

付や一部行政からの委託により、現在も事業を継続させています。

ここに注目！

日々状況が変化する避難生活の中で生じる個別の課題に向き合い、子どもや家族の支援に関係機関や地域住民とともに、継続的に取り組まれていました。

社会資源に限りのある仮設住宅において、子どもたちの学習支援という共通のテーマを、自治会や学校、地域住民等と共有し、協働して実施したことで、仮設住宅におけるコミュニティ形成にも寄与されていました。



学習支援の様子



遊び支援の様子

キーワード: **障害者** **被災者支援** **人材育成** 活動地域: 大阪府

テーマ: 福祉・介護従事者の確保・育成に関する事業

団体名: **特定非営利活動法人**

日常生活支援ネットワーク

事業名: 東北⇄関西被災地障害者継続支援連携事業

助成金額: 1,512 千円 事業年度: 平成 25 年度

団体概要

住所: 〒556-0012
大阪府浪速区敷津東 3-6-10

連絡先: 06-6649-0455

HP: <http://www.e-sora.net/party2>

事業背景

阪神淡路大震災において、障害者福祉の復興を経験した団体は、小規模な施設同士は被災後の緊急事態において協力し、障害者を支援していくことが必要と認識していました。

また、被災地における復興支援や被災障害者の移動支援等、阪神淡路大震災で培った経験から、東日本大震災からの復興には中長期的な視点に立ち、継続的な取り組みが重要であると感じていました。

そのためには時間とともに薄れてしまう被災経験を風化しないよう取り組むことが大切です。

事業概要

助成事業では、東日本大震災発生後まもなくして、被災地の混乱状況の中で、小さな障害者福祉サービス事業所が連携して障害者へサービスを提供できるよう支援を行いました。

また、被災地の支援スタッフが、養成研修を通して、東日本大震災の被災地の障害者支援スタッフの後方支援を行いました。

その他には、岩手・宮城・福島の3県で新たに社会資源を構築していく必要がある地域や交通機関が崩壊した地域での移動支援、県外避難者の受け入れや避難された方々の孤立防止などを目的にした活動を行いました。

復興支援、そして復興に向けた街づくりの中で障害者を含めた支援の在り方について考えていくためにも市民や多様な活動とのつながりが必要です。『東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭』では、多くの人に参加し、考え、話し合う場となりました。多くの市民がボランティアとして携わるなど、当初17団体で始めたこの事業も、100を超える団体が運営に参加するようになり、年に一度定期的に集まっています。

さらには、今後いつ起きるか分からない大規模災害に備えるために、街全体を使った非難訓練のシミュレーションを行っています。

ここに注目！

イベントを開催することで、多くの方に来場してもらい、風化しつつある災害について考えるきっかけとなり、継続的に取り組む体制づくりが進みました。



『東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭』の様子

キーワード: **被災者支援** **移動支援** **サロン** 活動地域: 福島県

テーマ: 高齢者や障害児・者などが地域で普通の暮らしをすることを支援する事業

団体名: **特定非営利活動法人NPOほうらい**

事業名: バスを通じた仮設住宅コミュニティー事業

助成金額: 7,000 千円 事業年度: 平成 23 年度

団体概要

住所: 〒960-8157
福島県福島市蓬莱町 1-10-7

連絡先: 024-549-6951

HP: <http://www.npohourai.com/index.html>

事業背景

東日本大震災による原発事故により、飯館村の住民の多くは、福島市南部にある仮設住宅で暮らしています。仮設住宅においては、ある程度の福祉的な支援が行き届いていた避難所の生活とは異なり、買い物や通院などさまざまな生活面での課題が浮き彫りとなりました。仮設住宅で暮らす高齢者にとって、通院や買い物への交通支援なくしては生活が成り立たない状況です。

また、1か所に集約されている仮設住宅とは異なり、みなし仮設は点在しているため、支援は十分に行き届いておらず、地域で孤立しがちな状況でした。

事業概要

助成事業では、当団体が従来実施してきたコミュニティバスによる移送支援を被災により避難されている方々へ行いました。また、みなし仮設にお住まいの方への支援として、飯館村の社会福祉協議会と連携しながら、移動支援や孤立防止にも取り組みました。

「お茶のみサロン」を立ち上げ、趣味の集まりの開催や、休耕地を活用して一緒に農作業をするなどの活動を地域住民と一緒にしています。震災による突然の生活スタイルの変化、長期化する避

難生活から、身体はもとより、鬱などの内面的な健康不安も多くの人が抱えておられます。そのため、福島県立医科大学と連携した健康づくり、介護予防などにも取り組んでいます。

長引く避難生活の中で、避難された方々の生活にも変化が見られますが、避難者の声を丁寧に聞きながら住民の現状に対する考えやニーズを踏まえた活動を現在も展開しています。

ここに注目！

“支援する”“支援される”という関係だけではなく、仮設住宅で暮らす住民も同じ地域に住む一人として、今何が必要か考えながら事業を展開しています。このことが復興に向けた住民のエンパワメントにもつながっています。



仮設住宅地を巡回するバス



健康サロンの様子

キーワード: **高齢者・障害者** **孤立防止** **生活支援** 活動地域: 高知県
テーマ: 高齢者や障害児・者などが地域で普通の暮らしをするこ
支援する事業

団体名: **特定非営利活動法人さわやか四万十**

事業名: 高齢者・障害者と共につくる新地域支援事業

助成金額: 2,271 千円 事業年度: 平成 26 年度

団体概要

住所: 〒786-0511
高知県高岡郡四万十町昭和 672-3
連絡先: 0880-28-5977

事業背景

当団体が活動する地域は、合併により淡路島並みの広さ(640 m²)をもつ町であり、町役場本庁や総合病院など町の中心部には約 50km 離れています。山間部に位置するため、人家は点在し、少子高齢化、人口減が深刻化する地域です。

また、行政や・福祉医療サービスが限られているため、高齢者の中には、週 1 回程度の移動販売車による買い物や、月 1 回のサロンが人との話す機会という独居高齢者もいらっしゃいます。

このような状況を踏まえると、自分たちで日常的に足を運ぶことのできる小地域単位で支えあう仕組みが必要と考えていました。

事業概要

助成事業では、近くの廃校校舎を利用し、介護予防体操や認知症・寝たきりの予防を目的とした「健康教室」、孤食や低栄養の予防を目的とした「食事会」、陶芸やパン作りなどの「生きがい教室」を開催しました。

これらの開催を通じて、孤立しがちな高齢者が集い、おしゃべりをつることで、ひきこもりや孤立防止にもつながることができました。普段、ひとりで食事をすることが多い独居高齢者にとっては、顔なじみの人と楽しく食事をとることができるとともに、会話の中で生活の困りごとや不安を把握することができるという複合的な利点がありました。

高齢者の抱える生活の困りごとについては、介護保険事業所など専門家につないだり、介護保険以外の日常生活のこまりごとには当団体行う有償ボランティアによる生活支援サービスを行いました。

当地域では、支える高齢者の人数が増えていきますが、活動の担い手の確保が難しいという課題を抱えています。しかし、この活動を通じて、元気な高齢者自身が活動の担い手として参加し、地域で“支えあう”関係が生まれています。

介護保険制度の改正により、住民やNPO等の協力を得ながら進められる地域住民による支え合いの活動の重要性は全国的に高まりつつあり、当団体の取り組みも注目されつつあります。

ここに注目！

住民ひとり一人が地域で生活をし続けていくために何ができるか考え、本取り組みに携わることで、地域の支え合いの仕組みができています。



「健康教室」や「食事会」の様子